

**荒井宏幸** 皆さん、おはようございます。翔政会の**荒井宏幸**です。朝一番、目覚めの発声をして、きょうも気合い十分です。きょうの1人目ということで、第1試合の整備されたマウンドに立つようなすがすがしさを感じています。また、我が会派からは、きょうも生きのいい新人の皆さんが初質問に立ちますので、どうぞ御期待ください。

では、通告に従って一問一答で質問していきます。

それでは、第1問です。観光誘客への魅力発信について伺います。

(1)、ガーデンツーリズム制度第1弾に登録された、にいがた庭園街道の道中で、いかに本市に立ち寄っていただくかです。

伝統的な日本庭園や花咲く公園などをめぐるガーデンツーリズムを広めるため、国土交通省は地域の取り組みを募集し、選定することを本年4月に発表しました。庭園や公園は、訪日外国人にも人気があり、新たな視点で地域の観光資源に光を当てることに狙いがあります。過去に国が牽引してきたツーリズムがつく施策には、各地の橋やダムをめぐるインフラツーリズム、自然スポットをめぐるグリーンツーリズムなどがあり、これらにかかわる団体にはさまざまな予算づけがされていたので、今回何とか本市も選ばれるための企画はないだろうかと思っていましたところ、5月末に新潟県によるにいがた庭園街道が選ばれたといううれしいニュースが入りました。

にいがた庭園街道は、村上市、関川村、胎内市、新発田市、阿賀野市、五泉市、田上町、そして本市と、全長約150キロメートルの街道沿いにある日本庭園、伝統建築をめぐるものです。これらの一つ一つの庭園が一体となってアピールすることで、観光地としての魅力を高めることができると思います。そして、多くの人に本市に滞在してほしいという願いがあります。

本市は、かつて潟や湿地が果てしなく広がるこの地において、水との闘いを制し、恵みの大地を生み出し、地主が豪農となり、また、北前船によって富を得た回船問屋が豪商となりました。彼らによって美しい庭園、伝統建築がつくられ、今も残っているわけです。

長い時を経て、これらが本市を救うことになるかもしれません。なぜならば、こうした庭園や建築は、本市の歴史の中で生まれた、国内外に誇れる、ほかにはないすぐれた価値だからです。そこに焦点を当て、道でつないだこのツーリズムは、インバウンド受けすることは間違いのないと思います。ここで新鮮な食材を駆使した料理を提供し、さらに本市にとどまらずにいられないきわめつけは古町芸妓です。SNS映えする庭園、食、芸妓の3点セットを軸にPRし、本市に多くの観光客を呼び込みたいところです。空港、港、駅、高速道路があり、あらゆるルートの玄関口となり得る本市は、にいがた庭園街道の発着地にもなる利点があります。さらには、日本庭園が紅葉で美しく色づくごろ、JRデスティネーションキャンペーンが始まり、ますますクローズアップされていくことでしょう。

本市は、世界が憧れる美しい都市へと、外からの印象が変わっていくチャンスを迎えたと捉え、この機を逃さぬように取り組むべきです。おもてなしの気持ちを持って来訪者に接していくことが大切であり、ポイントは市民の盛り上がりにあると思います。にいがた庭園街道を本市の観光誘客へどう生かしていくか、見解を伺います。

○議長（佐藤豊美） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） [荒井宏幸](#)議員の質問にお答えします。

議員お話しのように、魅力ある観光資源をテーマでつなぎ、広域的に誘客を図ることは有効な手段です。また、日本の庭園や盆栽は世界的にも人気が高く、海外誘客にも効果があると考えています。国のガーデンツーリズム登録制度の第1回登録に決定したにいがた庭園街道の計画では、県内の13の構成庭園の中に北方文化博物館や旧齋藤家別邸など、本市の4つの庭園が含まれており、国内外からの観光客にとっても新たな魅力となり得ると認識しています。本市としても、交通アクセスの利便性を生かすとともに、古町芸妓や料亭文化など、本市ならではの楽しみ方を庭園文化と組み合わせ、ツアー造成や情報発信を行い、国内外へ積極的にアピールしていきます。さらに、庭園ガイドの養成や、まち歩きガイドによる庭園の紹介など、市民とともににいがた庭園街道の取り組みを支援し、交流人口の拡大につなげていきます。

1点訂正させていただきます。「にいがた庭園街道の計画では」の後の13の構成庭園のところで、本来は「県内」と言うべきところを「国内」と言ってしまいましたので、訂正させていただきます。（当該箇所訂正済み）

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆ [荒井宏幸](#) まさに今まで、本市は観光資源が乏しいという声もあったのですが、ここに来て思わぬ掘り出し物というか、しっかりとした歴史に根づいたものが本市にもあり、それを近隣と連携することによってさらに価値を高めていくということ、ぜひともこれを何とか誘客に結びつけていきたいというところで、市長のさらなる御尽力に期待したいと思います。

続いて（2）、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録の勧告を受け、古墳ブームに追い風が吹く中、本県最大の古津八幡山古墳を含む古津八幡山遺跡をどう生かしていくか伺います。

私が住む東区には、牡丹山諏訪神社古墳があり、東区歴史浪漫プロジェクトとして周知を図るとともに、区民、商店街等と協働しながら地域の誇りづくりと活性化に取り組んでいます。きょうは秋葉区にある、新潟県最大の古津八幡山古墳を有する古津八幡山遺跡について伺います。

令和元年5月13日に、ユネスコの諮問機関であるイコモスは、日本最大の前方後円墳、仁徳天皇陵古墳として有名な堺市、大仙古墳を含む大阪府南部の百舌鳥・古市古墳群を世界文化遺産に登録するよう勧告しました。日本全国に築かれた古墳は大小約20万基に上り、形もさまざまあります。ブームに追い風が吹き、古墳に関心が集まることに各地での期待も大きくなっているようです。

さて、本市の古津八幡山遺跡は、新津丘陵に立地する大規模な高地性環濠集落であり、弥生時代後期から古墳時代にかけての社会情勢や変化を示す貴重な遺跡として、2005年に国の史跡に指定されました。1987年の第1

次調査から2013年の第19次調査まで発掘調査を行い、2007年からは、遺跡の内容が明らかになった部分から史跡整備に着手し、竪穴住居7棟、環濠と土塁、方形周溝墓、前方後方型周溝墓などを復元し、2014年には古津八幡山古墳の復元整備が完了しました。こちらのパネルをごらんください。（資料を手に持って示す）こちらが復元された現在の遺跡の様子です。直径60メートルの県内最大の円墳で、斜面の中ほどには幅四、五メートルの平たん面がめぐっています。蒲原平野を一望でき、また平野からも望むことができる丘陵の先端を選んで古墳は築かれています。仁徳天皇陵古墳のように、皇室の祖先の墓である陵墓は一般には非公開であり、周囲の堀の外側から拝見するしかありませんが、古津八幡山古墳は何と、上ることができます。階段もあり、頂上には丸太でつくった椅子もあります。ここは豪族の墓という説が有力です。奥に竪穴住居が復元されたものが見えます。このあたりは、下から5分ほど遊歩道を上ると到着するのですが、広々として開放的な気分になります。また、いつも心地よい風が吹いていて、静かで、目を閉じると1,600年前に一瞬タイムスリップしたような気持ちになります。はるか昔に思いをはせていると、日々の悩みなどどうでもよくなり、元気になります。こうした古墳の魅力がブームを支えているのかもしれない。

先日、6月2日、日曜日に花と遺跡のふるさとフェスタが開催され、この日、古津八幡山遺跡は大勢の人でにぎわっていました。皆さん楽しそうにされていてよかったのですが、多くの観光地で耳にするような外国語はそこにはなく、聞こえてくるのは聞きなれた新潟弁ばかりであり、どうも近場からいらした方ばかりのように感じられました。しかし、同時にこれは、これからの可能性がたっぷりあるとも思いました。例えば、国内外からモニターツアーを募り、SNS等で発信してもらおうというのも一案です。にいがた庭園街道のコースに入っている中野邸記念館を加えることも効果的と思われる。

また、遊歩道の入り口に近い丘陵の麓には、弥生の丘展示館があります。常設展示と企画展示があり、パネル展示以外にも出土品やジオラマなどもあり、弥生時代の暮らしの様子が子供にもわかりやすく、大人にも見ごたえのある内容になっています。しかも、入館無料です。また、ここでは全国的に広がりを見せている文化遺産カードも入手できます。スマホで写真を撮って、それを持って行って見せれば無料でもらえるのですが、実際に現地に行った人しかもらえない仕組みとなっています。カードコレクターたちがネットにアップしていたり、コアなファンもいらっしゃるようです。そして、本市で文化遺産カードになっているのは、今のところ古津八幡山遺跡のみです。

花と遺跡のふるさと公園は、大型バスの駐車場も完備しています。隣接する新潟市新津美術館、新潟県立植物園、新潟県埋蔵文化財センターとともに、魅力満載な古津八幡山遺跡を古墳ブームの追い風に乘せて、本市に観光客を呼び込まないともったいないと思いたいますが、見解を伺います。

○議長（佐藤豊美） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） 国史跡古津八幡山遺跡は、新潟県最大の古墳を有し、弥生時代から古墳時代への移り変わりがわかる重要性が評価され、平成17年に国の史跡に指定されました。全国には非公開の古墳もある中、本市では、実際に体感できる弥生時代の竪穴住居や古墳、弥生の丘展示館を整備して、遺跡の保存活用に努めています。これまでに、学校教育や生涯学習の場で活用されるとともに、県立植物園や新津美術館、新津フラワーランドなどの施設と連携し、春の、花と遺跡のふるさとフェスタなど、さまざまなイベントを開催しており、市民の皆様を中心に、全体で年間約65万人が訪れています。

最近では、史跡の隣接地で、大形竪穴住居や掘立柱建物など新たな遺構の発見があり、また古墳が百舌鳥・古市古墳群とおおむね同時期であるなど、学術的に貴重なことから、今後、本県での国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭や東京2020大会に向けた文化プログラムの場を初め、連携施設の拡大や民間企業との連携などにより、魅力の発信に努めていきます。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆[荒井宏幸](#) 今、市長の答弁にもありましたとおり、今までどちらかという学術的な、アカデミックな方たちには注目、周知されていたのですが、これから百舌鳥・古市古墳群が世界遺産になっていくということで、この追い風に乗って、観光としても本当にこれ生かせるのではないかということで、さらなる御支援をお願いしたいと思います。

それでは続いて、第2問に移りたいと思います。スポーツ振興についてです。

その前に、昨年の12月定例会一般質問にて私も取り上げましたが、新潟シティマラソンの件です。多くのランナーの声を受け、ことしは3連休の中日での開催にさせていただき、まことにありがとうございます。これで、本市の魅力発信と経済効果がぐっとアップします。うれしさの余り、私は無謀にもフルマラソンにエントリーしてしまいました。頑張っ走りたと思います。

それでは（1）、阿賀野川河川公園のトイレについてです。

本市が取り組んでいる健康寿命の延伸では、市民に減塩、健診、運動を呼びかけています。また、フレイル予防には栄養、運動、社会参加が重要と言われていています。両方に共通して出てくるワードが運動です。いかに運動が健康にとって大事であるかがわかります。また、これからさらに進む高齢化社会において、医療費の削減に寄与することも期待できます。地域のまちづくりセンターやコミュニティハウスでは、さまざまな健康的な取り組みが行われています。私も時々まぜていただいているカーリンコンは、最後までゲームの行方がわからず、エキサイティングで、みんな楽しく体を動かしています。

また、1人で手軽に行える運動に、ウォーキングやランニングがあります。しかしながら、歩いたり走ったりしていて心配なことがトイレです。以前参加した区政懇談会で、散歩していて困るのがトイレが少ないことであり、特に高齢になるとトイレも近くなるので、公園などに公衆トイレを

ふやしてほしいと要望された方もいました。しかし、一般的な公衆トイレの建設費は約2,000万円と高額であり、簡単にふやすわけにはいかないようです。コンビニのトイレを借りるという手もありますが、何も買わずにトイレだけ拝借するというのも気が引けます。

東区にある阿賀野川河川公園には、河川という特殊性から、移動式のトイレが設置されています。公園内には全部で5カ所あり、そのうち2カ所はバリアフリー対応の多機能型で、立派です。駐車場も完備されており、市民にはとても利用しやすい公園です。豊富な水量を誇る1級河川阿賀野川を望みながらウォーキングやランニングを楽しむ方も多く見受けられます。四季折々の花が咲き、広大な緑地には芝生公園、バーベキューもできるピクニック広場、多目的運動広場、テニスコート、野球場があります。公園内の野球場は、現在開催中である、参加チーム数日本一の新潟市早起き野球大会の会場にもなっています。ほかにも多くの大会会場として利用されていますが、よく耳にするのが、トイレをもっとふやしてほしいという御意見です。特に小・中学生が参加する大会では、付き添いや応援に来ているお母さん方が、トイレが足りず苦慮しているということを伺います。市民の憩いの場であり、健康増進、スポーツ振興に大いに貢献しているこの阿賀野川河川公園を、トイレ増設等により、さらに快適性を向上させていくことを前向きに御検討いただきたいと思うところですが、いかがでしょうか。

○議長（佐藤豊美） 堀内東区長。

〔堀内貞子東区長 登壇〕

◎東区長（堀内貞子） 阿賀野川の左岸河川敷に位置する阿賀野川河川公園は、野球場やテニスコートのほか、多目的運動広場や、釜場のあるピクニック広場があり、多くの皆様から親しまれ、御利用いただいています。トイレについては、可動式トイレをおよそ350メートル間隔で5カ所、便座の数としては多目的トイレを含め12台配置しています。皆様から快適に使用していただけるよう、昨年度からことし5月にかけて、洋式トイレへの切りかえを含め、全てのトイレを更新しました。

冬期間は、凍結により配管が破損するおそれがあることから、使用を御遠慮いただいております。加えて、出水期などで水位が上昇した際には、トイレを堤防上へ移動させる必要があるなど、管理上の課題が多く、増設については慎重に判断する必要があると考えています。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆[荒井宏幸](#) 課題が数多くあるというのは重々承知してはいますが、また、ことし本当にきれいに入れかえていただけて、整備が整ったところでのこういった質問は心苦しい部分もあるのですが、非常に必要とされているのも事実ですので、ぜひとも何か別の方法なども考えながらいろいろな意見交換をして、前向きに進めていただければと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

次に（２），青少年のスポーツ施設の使用料についてです。

本市においても少子化が進み，それに伴い，各スポーツでも青少年の競技人口の減少による影響が出ています。特に団体競技においては，チームが組めず，複数の学校で合同チームを編成して対応するケースもふえています。チームの人数が減ると，チーム全体の活動にかかる費用を各自が多く負担することになります。それが各家庭の財布への打撃となり，子供がスポーツを続けることが難しくなる原因にもなり得ます。

また，学校単位のスポーツ少年団や部活動には属さず，レベルの高いクラブチームで将来，国際大会やプロを目指す子供たちもいます。彼らは遠征費など，費用負担が重くなる一方です。具体的な話をしますと，野球においてはリトルリーグやシニアリーグがそれに当たりますが，彼らが本市の市営球場を大会等で使用する場合には，一般料金からの割引はありません。これがスポーツ少年団や中学校の部活動の大会の場合は，50%の割引が適用されています。持続可能な施設運営を図るため，使用料について一定の基準を設けることは大切なことですが，同じ本市に住む小・中学生が使用する場合には，内容により柔軟な対応もあってしかるべきと考えますが，見解を伺います。

○議長（佐藤豊美） 中野文化スポーツ部長。

〔中野 力文化スポーツ部長 登壇〕

◎文化スポーツ部長（中野力） 大規模の大会を誘致，開催することは，本市の魅力が大きくアピールする絶好の機会になるとともに，市民のスポーツへの関心を高め，地域の交流や活性化，経済効果にもつながることから，本市においても積極的に取り組んでいます。

議員御指摘のように，リトルリーグやリトルシニアの大会実施に係る施設使用料を減免することは，クラブチームの負担軽減や多くの大会開催につながるものと考えますが，受益者負担や公平性の観点から，慎重な検討を行う必要があると考えます。

なお，新潟市内で全国大会等を開催する場合，コンベンション開催に対する補助金制度が活用できる場合もありますので，クラブチームの負担軽減の観点からも，活用の検討をいただきたいと思います。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆ [荒井宏幸](#) 公平性を保つといったところは，当然基準があつてしかるべきだと思います。また，県外から来るチームに対しては，文化・スポーツイベントに係るコンベンション開催補助金などは既に利用してしまして，宿泊費など，各受益者負担としては助かっている部分はあるのですが，むしろ大会運営については，地元の人たちがいろいろと骨を折ってやっているという部分に鑑みて，また，これからの本市の将来を担う青少年の健全育成といったところ，まずそこを考えて，ぜひいろいろな何か方法はないのかといったところを，ここでぱっきり切るのではなくて，引き続き検討していただきたいと思いますと思うのですが，その辺いかがでしょうか。

○議長（佐藤豊美） 中野文化スポーツ部長。

〔中野 力文化スポーツ部長 登壇〕

◎文化スポーツ部長（中野力） リトルリーグやリトルシニアのチームだからといって、スポーツ少年団に登録できないわけではありません。また、現在登録しているチームもあります。大会の参加チームが全てスポーツ少年団に登録していれば、リトルリーグの大会でも学校料金の対象になりますので、その点は改めてその大会に参加されるチームの関係者の皆様に御検討いただければと思いますし、私たちとしてはやはり受益者負担、公平性の観点ということで今後も検討していきたいと思っています。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆ [荒井宏幸](#) 既にスポーツ少年団に入っているチームはあるのですが、入らない事情というのも各チームあるようでして、その辺もまた検討しながら、いい方向に進めていきたいと思っています。ぜひまた、いろいろな御意見をお聞かせいただければと思います。

続いて、第3問です。食の安心、安全について伺います。

（1）、行政の人員削減が進む中、食品等事業者が安心して安全な食の提供を行えるよう、食品衛生協会との協力がますます必要になるのではないかについてです。

食品衛生協会は、食の安全を守るため、食品衛生の向上に向けて、研修会、講習会の開催や啓発活動、保健所との共同巡回指導などを精力的に行っています。飲食店で目にする食の安心・安全・五つ星店のプレートは、新潟市食品衛生協会が発案した制度であり、取り組みやすさと高い効果により全国に広がった事業です。こうした活力を生かしてもらい、行政組織の効率化と経費削減のため、他都市の委託内容を参考にしながら、さらに協力を求める必要が出てくると思われますが、見解を伺います。

○議長（佐藤豊美） 野島保健衛生部長。

〔野島晶子保健衛生部長 登壇〕

◎保健衛生部長（野島晶子） 新潟市食品衛生協会には、長年にわたり本市の食品衛生施策に御協力をいただいています。昨年6月の食品衛生法の改正により、事業者に対する監視指導の重要性が増しており、今後、協会とのさらなる連携が必要になると考えています。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆ [荒井宏幸](#) まさにそのとおりでして、それを受け、（2）に移ります。HACCP導入義務化により、本市は飲食店への監視、指導についてどのように取り組んでいくのかについてです。

2018年6月に食品衛生法等の一部を改正する法律が公布され、原則として全ての食品等事業者に対して、国際基準であるHACCPに対応した衛生管理の導入が義務化されました。法の施行は公布から2年以内となるため、HACCPが制度化されるのは2020年。さらに1年間の経過措置期間があり、2021年までには、飲食店を含む全ての食品等事業者がHACCPを導入しなければなりません。なぜ導入が必要なのかというと、グローバル化の進展により、日本の食や食品を取り巻く環境が変化し、国際基準に合わせた食の安全、衛生管理が求められたわけです。インバウンドの急増やオリンピック開催のタイミングも重なり、日本もHACCPを導入すべきとの議論が高まったことが背景にあります。

今回の制度化では、HACCP導入について、認証の取得は不要とのことです。実施状況については、保健所等が営業許可の更新時や通常の定期立入検査等の際に、HACCPの手法を用いて衛生管理計画の作成や実践がなされているか監視し、指導することになると思うのですが、各事業者へ浸透させることなども含め、かなり労力が必要と思われます。本市は、どのように取り組んでいけますか。また、食品衛生法に規定されている食品衛生推進員の活用も進めてはどうでしょうか。

○議長（佐藤豊美） 野島保健衛生部長。

〔野島晶子保健衛生部長 登壇〕

◎保健衛生部長（野島晶子） 今、議員から御説明いただきましたとおり、食品衛生法の改正により導入されることとなりました。国際的な食品衛生管理手法であるHACCPについては、現在、事業者への普及促進や監視指導に努めているところです。また、2年後の完全施行に向け、公的業務にも従事できる食品衛生推進員の養成や活用なども検討する中で、協会と連携しながら本市の食の安心、安全を推進していきます。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆ [荒井宏幸](#) 前向きな御答弁ありがとうございます。まさに食品衛生推進員は、立ち入れる幅が広がっていきますので、養成もお願いしたいと思います。

続いて、第4問です。統一地方選挙における東区の開票おくれについて伺います。

さきの統一地方選挙で、東区では県議選、市議選ともに開票が大きくおくれました。日付がかわり、テレビの速報も終了し、データ放送では開票率ゼロ%のまま動かない一覧表が映し出されているだけで、一体いつまで待てばいいのだろうという気持ちで待つしかありませんでした。結果が出たのは、午前2時近くでした。選挙に行った人はもちろん、ほかの区に住んでいて票を投じていない人も、本当に多くの人に関心を持って、寝ないで結果を待っていたことが後日よくわかりました。いまだに言われます。

県議選において、名字が同じ候補者の票がまざっていたため、回収して数え直したとのことですが、東区では市議選において、まさに今座ってい



らっしゃいます議長，そして副議長がそうですが，これまでも同じ名字の候補者がいましたが，このようなことはありませんでした。

(1)，なぜこれほどおくれたのか。その原因について教えてください。

○議長（佐藤豊美） 真島選挙管理委員会委員長。

〔真島義郎選挙管理委員会委員長 登壇〕

◎選挙管理委員会委員長（真島義郎） 東区での県議会議員選挙の開票作業終盤において，選挙立会人から票が混在しているとの指摘があり，確認したところ，500票束の中に他の同姓候補の票が13票まじっていました。既に県議，市議ともに開票作業をほぼ終わっていましたが，選挙長及び選挙立会人と協議し，県議は全ての票を，市議は同姓及び同名の3候補の票について再確認することにしました。その結果，最初に見つかった混入票以外は異状ありませんでしたが，この再確認作業を行ったことから，予定していた時刻より県議は2時間半，市議は1時間，確定がおくれることとなりました。

東区選挙管理委員会で原因を調査したところ，断定は難しいものの，点検係が見つけた手元に置いていた混入票が，多くの従事者が作業する中で，点検済みの票と誤認され，混入したと考えられます。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆ [荒井宏幸](#) 手元に置いていた票がほかのところと混入してしまったのではないかという見方が強いということですが，それに対して，(2)になります。今後の対策はどのようにお考えでしょうか。

○議長（佐藤豊美） 真島選挙管理委員会委員長。

〔真島義郎選挙管理委員会委員長 登壇〕

◎選挙管理委員会委員長（真島義郎） 今後は，点検係で見つけた混入票を入れる容器を用意し，点検済みの票と明確に区分することで，再びまざらないように対策することとし，マニュアルを改正するとともに，全区の選挙管理委員会事務局にも対策を周知しました。有権者に正確な結果を早く届けることができるよう，適正かつ迅速な開票事務に取り組んでいきます。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆ [荒井宏幸](#) まざらないように専用の入れ物を今度新しく入れるといったところが，是正として上がってきているようですが，そのことによって工

程がふえたりとか、何かますます作業が大変になるとか、そういった影響はありませんか。

○議長（佐藤豊美） 真島選挙管理委員会委員長。  
〔真島義郎選挙管理委員会委員長 登壇〕

◎選挙管理委員会委員長（真島義郎） 正確を期すために検討していきたいと思っています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） 荒井宏幸議員。  
〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆ 荒井宏幸 この1票1票、本当に大切な票でありますので、十分認識されていると思うのですが、またこういったことがないようにしっかりと、また、これで選挙に行ったがために寝不足になるから選挙に行きたくないなんていう人が、出ないとは思っているのですが、そういったことがないように、ぜひともよろしくお願いしたいと思えます。

それでは、第5問、最後の質問です。全国都市緑化フェアについて伺います。

全国都市緑化フェアについては、平成29年6月定例会にて、田村要介議員が一般質問で取り上げています。田村議員は、その年に開催されていた第33回全国都市緑化よこはまフェア「ガーデンネックレス横浜2017」を質問の前に視察されておりました。その田村議員と、2週間ほど前になりますが、ことしの会場、第36回全国都市緑化信州フェア「信州花フェスタ2019～北アルプスの贈りもの～」を視察してきました。テーマは、「北アルプスの麓から広がる花と緑に包まれたしあわせ暮らし」です。4月25日から約2カ月間にわたり開催されたフェスタは、最終的に目標の50万人を大きく上回る、70万人を超える来場者が訪れたそうです。会場は、信州まつもと空港を取り囲むようにエリア別につくられておりました。厳しい冬を乗り越えて芽吹きを季節を迎え、そして美しい花と緑に彩られた喜びを感じる幸せな空間が広がっておりました。

本市も平成10年に第15回全国都市緑化フェア「にいがた緑のものがたり'98」を開催しています。残念ながら私は当時、東京で暮らしており、このフェアに行くことはありませんでした。しかし、その後Uターンした後、鳥屋野潟公園や花と遺跡のふるさと公園へ子供を連れていったときには、立派に整備された公園に感激した記憶があります。

それでは、質問に移ります。（1）、本市の玄関口である駅周辺の植栽状況についてです。

先日の都市緑化フェアの帰り道のことですが、色とりどりの花がいっぱいの会場を見た後ということもあったのですが、新潟駅南口へバスが近づくとつれ、余りに花がなくて、少し寂しい気持ちになりました。開港150周年だからというわけではないのですが、舟形の大きなプランターが歩道に並んでおりました。しかし、そこには枯れ草しか生えていませんでした。これから何か植えるのかもしれませんが、大型連休中もこんな感じでしたら残念だと思いました。

専門家に伺ってみると、11月ごろにビオラやパンジーを植えると冬を越し5月から6月までもつので、その時期に、今度はベゴニアやマリーゴールド、ブルーサルビアなどを植えると秋までもちます。5月と11月の年2回、半年ごとに植えかえれば、年間を通して切れ目なく花が出迎えてくれるわけです。

都市緑化フェアの目的に、都市緑化意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及があります。たった1日、都市緑化フェアに行ってきただけで、私のように花よりだんごが似合うような男でも、フェアの目的に近づく意識に変わっていることに気づきます。まずは、花が出迎える駅周辺となるよう御一考いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（佐藤豊美） 吉田土木部長。

〔吉田和弘土木部長 登壇〕

◎土木部長（吉田和弘） 新潟駅周辺は、本市の玄関口として重要な空間と考え、来訪者に花のまち新潟のイメージを高めてもらうため、新潟駅の万代口広場及び南口広場においてプランター植栽等を行っています。さらに、万代口広場では、今年度開催されたG20新潟農業大臣会合に合わせて、参加国の代表的な花や木を植栽して来訪者をお迎えしました。

また、国道7号流作場五差路から万代シティの間において、市が所有するプランターボックスを民間企業などに利用してもらい、植栽及び管理を行ってもらうフラワーパートナー事業を現在実施しています。今後は、新潟駅周辺においても同事業を活用するなど、花と緑の空間づくりを進めていきます。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆[荒井宏幸](#) そうしますと、G20という大事な会合があったわけですので、どちらかという万代口のほうにシフトして、駅南のほうに手が回らなかったという認識でよろしいでしょうか。

○議長（佐藤豊美） 吉田土木部長。

〔吉田和弘土木部長 登壇〕

◎土木部長（吉田和弘） 植栽管理については、きちんと管理して、いい状態の花でお迎えしたいと考えています。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆[荒井宏幸](#) ぜひよろしくお願ひします。

それでは（2）、本市への誘致についてです。

都市緑化フェアは、過去30年の実績から、人々の心を魅了し、集客力が

高いことが証明されています。新潟市民が花と緑に囲まれ、豊かで幸せに暮らしていけるように、具体的に未来のイメージを描ける起爆剤が本市の発展には必要です。20年以上の時を経て、再び誘致に向けて動き始めるときと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（佐藤豊美） 吉田土木部長。

〔吉田和弘土木部長 登壇〕

◎土木部長（吉田和弘） 全国都市緑化フェアは、国民一人ひとりが緑の大切さを認識するとともに、緑がもたらす快適で豊かな潤いのあるまちづくりを進めるための普及啓発事業として、毎年、全国各地で開催されています。平成10年の新潟県との共同開催では、約98万人の来場者をお迎えし、本市の花と緑のすばらしさや大切さを感じ取っていただき、魅力の発信につながったものと考えています。

近年の開催地では、地域の活性化や観光交流の拡大に向けて、より多くの市町村が連携した広域や全県での開催が一般的となっています。全国都市緑化フェアの開催に当たっては、多額の事業費が必要なことや、新潟県を初め、県内他機関との連携の枠組みなど、課題があることから、引き続き検討していきます。

〔[荒井宏幸](#)議員 発言の許可を求む〕

○議長（佐藤豊美） [荒井宏幸](#)議員。

〔[荒井宏幸](#)議員 登壇〕

◆ [荒井宏幸](#) 部長おっしゃるとおり、本市だけというわけではなくて、当然、県との連携も必要ですし、前回やったときは、当時の新津市と一緒にやっていたということで、いろいろと時間がかかる事業でもありますし、もう既に何年か先まで埋まっているということもあります。そういったところで、ぜひ前向きに検討していただきたいと感じています。

ちなみに、横浜市が2017年に全国都市緑化よこはまフェアを開催したときの愛称が「ガーデンネックレス横浜」でした。花と緑の魅力であふれる町をネックレスのようにつなぐ取り組みを実施しました。その後も、この都市緑化フェアの成功を継承して、このたびのガーデンツーリズム第1弾、新潟県のにいがた庭園街道とともに、横浜市はガーデンネックレス横浜ということで選ばれています。横浜市はさらに、国際園芸博覧会の招致につなげようとも動いています。国際園芸博覧会というのは、日本では過去に大阪で、国際花と緑の博覧会をただ1回やったきりです。

大切なことは、成功体験をよかった、よかったで終わらせるのではなくて、次につなげようとするのではないかと、ここから気づかされます。今回こうしてにいがた庭園街道で本市も絡んでいくと、本市に通ってもらおうといったところでつながっていく。大事なものは、そうやってつながっていく、そしてまたJRデスティネーションキャンペーンで庄内地方ともつながる、また世界遺産を目指す佐渡ともつながる、そうしたつながりをどんどん大きくして、この新潟が発展していくのではないかと考えています。大事なものは、つながること、つなげていくことではないかと思えます。

ということで、全国都市緑化フェアの誘致については、今回一緒に信州に行きました田村議員が、９月定例会で満を持して質問するというので、この件は田村議員につなぎまして、私の質問は終了します。ありがとうございました。（拍手）